

第6学年 国語科学習指導案

日 時 平成25年11月13日(水) 6校時

場 所 6年教室

児 童 男5名 女8名 計13名

指導者 菅 原 真

- 1 単元名 物語に込められた思いや願いを読み、感想交流会をしよう
学習材 「ヒロシマのうた」東京書籍 6年下
戦争をテーマにした本 数冊

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「感想を交流する」ことを位置づける。ここで行う交流では単に物語の感想について発表し合うだけではなく、物語の主題についての解説を交流することをねらう。物語の主題についての解説とは、主題について自分の考えをもち、その根拠が物語のどこに表れているのかを明らかにし、学級の友達に説明することである。交流会では、推薦したい一冊の解説について話し合いを行う。このことにより「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり、深めたりすること。」(読むことオ)を実現できるようにしている。

3 単元について

(1) 児童について

本学級の児童は、5年生12月に「目的に応じて、複数の本や文章などを選び比べて読む力」の育成をねらい「ポップを作って本を推薦する」という言語活動を行っている。ポップの中には、キャッチコピー、あらすじ、引用、感想の4つの要件を入れた。この学習を通して、児童は同じテーマで描かれた本の中から一冊を選び、その本の最も強く印象に残った叙述を引用しながら本を推薦することで、比べて読む力を付けた。

6年生6月には「優れた叙述について自分の考えをまとめる力」の育成をねらい「物語が最も強く語りかけてきたこと」を要件として入れた「ブックポスターで推薦する」という言語活動を行った。この学習から児童は、「あらすじ」「中心人物の心情の変化」を読み取っていく活動を通して物語の主題に迫っていく読みの力を付けてきた。

また、10月には「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえる力」の育成をねらい「人物相関図」「表現のよさ」などを要件として入れた「パンフレットで推薦する」という言語活動を行った。この学習から児童は、登場人物の相互関係から人物の心情の変化を読み取って行く活動を通して、物語の主題について考える読みの力を付けてきた。

しかし、物語の主題を話題にお互いの解説を交流する学習は行ってきていない。そこで、本単元では、今までの学習の力を生かし、物語の主題について自分の考えを持ち、その考えを交流し合う中で自分の考えを深めたり、広げたりする力をつけられるよう指導していきたい。

(2) 単元構成について

本単元で付けたい力は、「本を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする力」である。そこで本単元では、言語活動として「感想交流会」を設定した。「感想交流会」で話し合

う要件は「物語の主題についての解説」とした。また、その根拠となる要素は「物語で一番心に残った場面や言葉」「登場人物の生き方」「題名」などである。これらのことを読み取っていくことで全員がそれぞれの本の主題について考え、根拠を明らかにしながら自分なりの考えや感想を持つことができると考えた。

第1次では、まず教師が感想交流会をしている様子を映像で見せる。そこで、言語活動の具体的なイメージを持たせるとともに、感想交流会に必要な要件を話し合う。また、並行読書で扱う本について教師がブックトークを行い、並行読書の本への興味を喚起する。その後、感想交流会までの学習計画を立てる。

第2次では、初めに物語の大体を捉え、物語で一番心に残った場面や言葉を考える。次に登場人物ヒロ子の生き方について叙述をもとに考える。そして、物語の題名について考える。最後に物語の主題について解説をワークシートに書いた上で「ヒロシマのうた」について「感想交流会」を開く。

第3次では、自分が推薦したい本について読み深めるための読書の時間を1時間とった後、これまで学習してきた読みを生かし、自分で選んだ本について、感想交流会を行う。お互いの考えや感じたことを交流することで、さらに自分の考えを深めたり、広げたりする時間としたい。

本単元で使用する学習材は「ヒロシマのうた」（東京書籍6年下）である。この物語は、戦時中に「わたし」が行きずりの夫婦に託した小さな命がたどる人生が、「わたし」の目線を通して描かれた作品である。物語は大きく3つの場面で構成されていて、時間の経過と登場人物の変化を読み取りやすい構成となっている。「題名」や「原子雲の刺繍」など物語の主題を考える手がかりが多く含まれている。これらのことから、今回の学習に適した学習材であると考えられる。

(3) 指導について

本単元で使用する学習材は、戦争をテーマにした内容の本である。本学級の児童は、戦争を体験していないことはもちろんのこと、近親者で戦争を体験している者もない。そのため、戦争下における日本の状況や社会の動き、当時の人々の考え方についての理解が乏しかった。そこで、本単元での学習に入る前に、社会科の歴史の授業では写真資料などを数多く提示し、当時のイメージを持ちやすいように工夫した。また、音読集会で戦争をテーマにした物語の発表を聞いたことをきっかけに、学級内に「戦争に関する本」のコーナーを設置し、ブックトークを行った。このようにし、戦争下における日本の状況について理解を深めるとともに、戦争に対する考えを一人一人が持てるような環境作りをしてきた。

第1次では「一つの花」（東京書籍4年上）について、教師が感想交流を行っている様子を映像で見せる。映像を見ることで言語活動の具体的なイメージを持つとともに、活動への意欲付けにもつなげたい。その後、感想交流を行うための要件を話し合う。感想交流を行うためには物語の主題を読み取り、その主題について根拠を明らかにしながら説明することが必要なことを確認する。また、並行読書を行うことを知らせ、扱う本について教師がブックトークを行う。共通するテーマを確認するとともに、並行読書に対する児童の意欲を喚起する。読書記録カードの使い方を指導し、自分の読んだ本の記録を取ること確かめる。2時間目には、「主題の解説」を考えるための読みの視点を明らかにし、学習計画を立てる。

第2次では、初めに物語の大体を捉えるため「あらすじ」「登場人物」について確認し、「一番心に残った場面や言葉」とその理由をワークシートに書く。そして、考えの交流を行う。次時に、登場人物ヒロ子の人柄に関する叙述からヒロ子の生き方について考え、自分の考えをワークシートに書く。そして、考えの交流を行う。また、題名について、作者が「うた」の語源が「訴える」だと考えていることを伝

えた上で、作者が誰に何を訴えたかったのか自分の考えをワークシートに書き、その考えについて話し合いを行う。このようにして、考えの交流を何度も行っていくことで感想交流会を行うための下地を作っていく。また、同時に授業の中で学んだ視点で並行読書の本についても触れる時間を作る。そのことにより、第2次で学んだ読みが広がり、第3次の活動につながっていくと考えた。そして、最後に一人一人が「物語の主題についての解説」をワークシートに書く時間を経て、感想交流会を行う。

第3次では、まず、自分が推薦したい本についてもう一度読み返し、読み深める時間を1時間設定した。この時間で自分が推薦したい一冊についてもう一度読み返し、「物語で心に残った場面や言葉」「登場人物」「題名」「主題の解説」について項目ごとに自分の考えをプリントにまとめる。そして、感想交流会で話す際の手がかりとさせる。感想を話す本を選書する際には、読書記録カードを参考とさせたい。カードの中に感想を書く欄を設け、最後に感想交流会を行うことを意識させたい。感想交流会では、お互いの考えたことや感じたことを交流することで、さらに自分の考えを深めたり、広げたりできるようにしたい。

4 単元の指導目標

- 戦争をテーマにした本に興味を持ち、推薦したい本について意欲的に本を読み返そうとする。
(関心・意欲・態度)
- ◎物語の主題についての解説を、どの叙述に基づいているのかを明らかにしながら発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。
(読むこと)
- 同じテーマの物語を読んで感想を交流するために、ブックリストの中から作品を選び比べて読むことができる。
(読むこと)
- 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて意識して文章を読むことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○戦争をテーマにした本に興味を持ち、推薦したい本について意欲的に本を読み返そうとしている。	◎物語を読んだ感想を、どの叙述に基づいているのかを明らかにしながら発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。(オ) ○物語を読んで感想を交流するために、ブックリストの中から作品を選び比べて読んでいる。(カ)	○語感、言葉の使い方に対する感覚などについて意識して文章を読んでいる。(イ(カ))

6 本単元の読みの視点

- (1) あらすじ、登場人物など話の大体をとらえ、根拠を明らかにしながら「一番心に残った言葉や場面」を選ぶこと。
- (2) 登場人物の人柄についての叙述に着目して読むこと。
- (3) 題名に着目することで、物語の主題について考えること。

7 単元の指導計画（全8時間扱い）

【本単元につながる学び】

目 標 一つの物語をきっかけにして、関連するテーマの本を読み広げる。

指導事項 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

言語活動 ポップで推薦しよう

学 習 材 「大造じいさんとがん」 東京書籍 5年下

次	時	主な学習活動	並行 読書	指導上の留意点（・）と評価（◇）
1	1	○教師のブックトークを聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・「一つの花」について教師（3人程度）が行った感想交流の映像を見せ、言語活動の具体的なイメージをもてるようにする。 ・感想交流会での話し合いの柱（物語に込められた思いや願い）について気付けるようにする。 ・並行読書する本について教師のブックトークを聞き、これからの学習に意欲を持たせるとともに、並行読書の本に対する興味を持てるようにする。 ◇感想交流会の具体的なイメージを持つとともに、並行読書の本に興味を持っている。（発言・態度・ノート）
	2	○学習材を読み、学習計画を立てる。		<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画を立てられるようにする。 ・新出漢字、言葉の意味の確認を行う。 ・初発の感想を書けるようにする。 ◇学習の見通しを持つことができている。（発言・ワークシート）
2	3	○物語の大体を捉える。		<ul style="list-style-type: none"> ・「あらすじ」「登場人物」を確認し、「一番心に残った場面や言葉」を書き、考えたことや感じたことを書けるようにする。 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">視点（1）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・並行読書している本の「一番心に残った場面や言葉」について交流できるようにする。 ◇物語の大体をとらえ、自分が考えたことや感じたことを書いている。（発言・ワークシート）
	4 本時	○登場人物の生き方について考える。		<ul style="list-style-type: none"> ・ヒロ子の人柄についての叙述からヒロ子の生き方について考えられるようにする。 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">視点（2）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・叙述を細かく探していくのではなく、ヒロ子の生き方について自分の考えをもち、交流できるようにする。 ・並行読書している本の「登場人物」について交流し、視点を持って読めるようにする。 ◇物語を読んで考えたことを話し合い、自分の考えを広げている。（発言・ワークシート）

	5	○物語の題名について考える。		<ul style="list-style-type: none"> ・「うた」の語源について作者の考えを教えられるようにする。 ・「何を訴えたかったのか」という観点から物語の主題について考え、自分の考えをワークシートに書けるようにする。 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">視点(3)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・並行読書している本の「題名」について交流し、視点を持って読めるようにする。 <p>◇物語の題名とそこに込められた思い・願いについて考えている。(ワークシート)</p>
	6	○「ヒロシマのうた」の感想交流会を行う。		<ul style="list-style-type: none"> ・前時までにまとめた内容をもとに「主題の解説」をグループごとに交流できるようにする。 ・交流会であるからグループごとにまとめることはしない。 ・交流後、自分の考えをもう一度まとめ、ワークシートに書き表せるようにする。 <p>◇物語を読んで考えたことを話し合い、自分の考えを広げている。(発言・ワークシート)</p>
3	7	○ブックリストの中から推薦したい一冊を選び、その本についてもう一度読み直す。		<ul style="list-style-type: none"> ・ブックリストの中から選んだ本について、「物語で心に残った場面や言葉」「登場人物について」「題名について」「主題の解説」を考えながら、もう一度読み直し、ワークシートにまとめられるようにする。 <p>◇作品に込められた思いや願いを考えながら、同じテーマを取り上げた本を読んでいる。(行動観察・読書カード)</p>
	8	○ブックリストの中から選んだ推薦したい本について自分の解説をまとめ、交流会を開く。		<ul style="list-style-type: none"> ・物語の主題についての解説をグループごとに交流できるようにする。 <p>◇物語を読んで考えたことを話し合い、自分の考えを広げている。(発言・行動観察・ワークシート)</p>

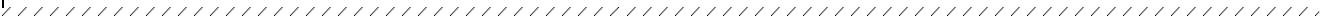
【本単元がつながる学び】

目 標 作品を読み、登場人物のものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。

指導事項 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。

言語活動 広告カード(ポップ)で推薦しよう

学 習 材 「大人になれなかった弟たちに……」 光村図書 中1



8 本時の指導

(1) 目標

物語を読んで考えたことを交流し、考えを深めることができる。

(2) 指導過程

時間	主な学習活動	主な発問 (○) と指示 (△)	指導上の留意点 (・) と評価 (◇)
つかむ 5分	1 前時までの学習を想起し、本時の課題を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">ヒロ子の生き方について、考えを交流しよう。</div>		・本時の読みの視点「ヒロ子の人柄についての叙述に着目して読むこと」を確認する。
ふかめる 30分	2 ヒロ子の人柄についての叙述を挙げる。 3 シャツにししゅうをしたヒロ子の思いについて考える。 4 ヒロ子の生き方について考える。 5 自分がもった考えについてグループで交流する。 6 各グループでの交流をもとに、学級全体で交流を行う。	△ヒロ子の人柄について分かるところを発表しよう。 ○ヒロ子はなぜ、原子雲の刺繍をしたのでしょうか。 △ヒロ子の生き方について自分の考えをシートに書きましょう。 △考えの交流をしましょう。 △グループで交流したこともふまえ、自分の考えを発表しましょう。	・前時までにサイドラインを引いているところをもとに挙げさせる。 ・児童から出ない部分については教師側で補う。 ・なぜヒロ子が原子雲の刺繍をしたのかを考えさせることで、ヒロ子が母親の死を乗り越えたことに気付かせたい。 ・ヒロ子の生き方について考えたことを書かせる。 ・グループごとに考えの交流を行う。考えを一つにまとめる必要はないことを確認する。 ・司会を事前に決めておき、それぞれの考えを発表しただけで終わらないようにする。 <評価規準> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">◇ ヒロ子の生き方に対して自分の考えを持ち、交流によってその考えを広げたり、深めたりしている。 支 「言葉集」の中から叙述から想像できる言葉を探させる。</div>

まひ とろ めげ るる 10分	7 学習のまとめを行う。 ・振り返り	△学習の振り返りをシート に書きましょう。	・本時の学びについて振り返り、自 分の学びを確認する。
	8 本時の視点で並行読 書の本を紹介する。	○自分の読んでいる本の登 場人物について紹介して ください。	・並行読書の本を読むときも読みの 視点を意識すると良いことを確認 する。
	9 次時の学習内容を確 認する。		・次時は、題名について考えていく ことを確認する。

(3) 板書計画

物語にこめられた思いや願いを読み、
感想交流会をしよう

課題 ヒロ子の生き方について、考えを交流しよう。

読みの視点

ヒロ子の人がらについて書かれていること

① ヒロ子について書かれていること
② ヒロ子の生き方について考える
③ 考えの交流

〈ヒロ子について書かれていること〉

- ・ 暗いかげ (P70L4)
- ・ ヒロ子ちゃんは強い子でした。(P73L16)
- ・ 勝ち気なヒロ子ちゃん (P74L6)

〈原子雲の刺しゅうをした理由〉

児童の考え

〈ヒロ子の生き方について〉

児童の考え

児童の考え